

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」平塚校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 11日 ~ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2025年12月10日 ~ 2025年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特性を踏まえたやニーズに応じた発達支援の提供	定期的に家族支援（面談）の機会を設け、ご家庭での様子や園での様子、当事業所での活動の様子を共有することで、お子さまの困り感やニーズに合わせた支援計画の作成、支援の提供を行っております。	今後も引き続き、定期的に家族支援（面談）を行い、困り感やニーズに合った支援の提供ができるように取り組んでまいります。また職員全体で情報を共有し、質の高い支援の提供ができるよう取り組んでまいります。
2	家族支援の提供	定期的な家族支援（面談）、支援見学の機会を設け、フィードバックでの子育て等への助言、通所時はもちろん、LINE、メール、電話等でのご相談を随時受け付け、保護者の方の困り感に寄り添った支援を心がけております。また、関係機関連携で園との連携を行ったり、保護者会（ペアレント・トレーニング）を開催し、保護者同士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行ってきました。	子どもは、家族やその家庭生活から大きな影響を受けるため、「こどもまんなか」にしたご家族への支援の充実の大切さが重要と捉えております。ライフステージを通じて、ご家族をしっかりとサポートすることにより、こどもの「育ち」や「暮らし」が安定し、こどもにも良い影響を与えることが期待できると考えるため、家族全体の支援を今後も進めてまいります。
3	高い満足度	利用者の方が「安心感」をもって通所できることを第一に、その上で通所が楽しい・有意義だと思っていたり、支援の質の向上に向け、職員の研修も日々進めております。特に発語の支援ではことばを歌で促す支援方法の研修を事業所内で行ったり、事業所内で教材を作成したりと、支援の充実を推進してまいりました。	今後も引き続き、安心感を感じ、来所が楽しい・充実した支援内容の提供を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。困り感やニーズに合わせた支援の提供、支援の質の向上を目指し、利用者本人や家族の方に今後も満足を感じていただけるよう進めていきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルや法体制のわかりやすい周知	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時に周知・ご説明させていただいているが、周知の仕方に課題があり、説明を受けていないとの印象を持たれる保護者の方がいらっしゃいました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方で、繰り返し伝えていきたいと思います。
2	保護者同士の交流の機会の充実とわかりやすい周知	今年度は6月と9月に保護者会・ペアレント・トレーニングの会を開催し、保護者の方同士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行いました。また、家族支援（面談）では、ごきょうだい児についての子育てのアドバイスも行いましたが、周知が足りず、実施している状況が伝わっていない状況がありました。	今後はさらにわかりやすい周知の仕方で保護者会実施をお知らせていきたいと思います。また、学齢期のお子さまのご利用者の保護者の方にも興味を持っていただけるような内容の保護者会の企画をしていきたいと思います。
3	避難訓練等の活動実施のわかりやすい周知	非常災害の発生に備え、毎月テーマを決め、全職員で防災訓練を実施しております。防災訓練の計画・実施については、教室掲示を行い、児童の支援時に行った訓練や支援については会報「きらり通信」やブログやSNSにて様子をお伝えしておりますが、実施報告についてわかりにくいという印象を持たれる保護者の方がいらっしゃいました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方で、繰り返し伝えてしまいたいと思います。また、防災についての支援を個別・小集団で実施した際には、フィードバックでねらいや支援の成果をわかりやすく説明してまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」平塚校						公表日		2026年 2月 14日			
利用児童数 27 回収数 27													
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	はい 25	どちらともいえない 2	いいえ 0	わからない 0	ご意見 もう少しスペースがあると嬉しい。		ご意見を踏まえた対応 今後も安全面に配慮しながら、活動内容や人数に応じた柔軟な環境設定をまいります。				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	はい 24	どちらともいえない 2	いいえ 1	わからない 0	新校舎開校に伴う異動によって職員数が減った。 又本人と相性の良い先生も異動したり等少し不安がある。		職員の異動でご不安を感じさせてしまった点を真摯に受け止めております。法令で必要とされる職員の配置をしておりますので安心してご利用していただける体制づくりに努めてまいります。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	はい 24	どちらともいえない 1	いいえ 0	わからない 2			パーティションで区切り利用者に合ったスペース作りを一人ひとりに合わせて設定しております。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			安心して過ごせる環境づくりを今後も維持・向上に努めてまいります。				
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	はい 26	どちらともいえない 1	いいえ 0	わからない 0			特性理解を大切に専門性を活かした支援の充実を図ってまいります。				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			公表している支援内容と実際の支援が一致するよう今後も継続的に確認して参ります。				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	はい 26	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 1	職員の対応が良いで色々な場面で子どもの接し方を親も学びたい。		今後も保護者の方のニーズをお聞きし、個別支援計画を作成してまいります。				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	はい 24	どちらともいえない 2	いいえ 0	わからない 1			今後も専門性を活かして支援内容がより伝わるよう、具体的な説明を心がけてまいります。				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			計画に沿った支援を今後も適切に実施してまいります。				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	はい 26	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 1			活動プログラムについて、内容やねらいが分かるように情報発信の工夫を行ってまいります。				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	はい 19	どちらともいえない 6	いいえ 0	わからない 2	同じ時間に利用している子と仲良くなれて嬉しそうです。活動でも一緒にやれる機会があればお願いしたい。		個別療育の為、外部との交流は現状実施しておりません。在籍児童の通園している園へ関係機関連携を必要に応じて行っております。				
保護者への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			利用開始時の説明について、引き続き丁寧でわかりやすい対応を行ってまいります。				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			支援内容の説明について、保護者の理解が深まるよう努めてまいります。				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	はい 25	どちらともいえない 2	いいえ 0	わからない 0			今年度は6月と9月に保護者会やペアレント・トレーニングを実施し、保護者同士で交流したり情報共有する機会を設ける等の支援を行いました。個別療育の事業所の為、きょうだい同士で交流する支援を行っておりません。				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			日々の情報共有を大切にし、保護者との連携強化に努めてまいります。				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	はい 27	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 0			定期的に家族支援（面談）を行い、保護者の方の子育てに関するアドバイス等が行えるよう努めています。				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	はい 26	どちらともいえない 0	いいえ 0	わからない 1			職員による共感的な関わりを大切にし、信頼関係の構築を継続してまいります。				

説明等	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	9	0	3	きょうだい向けのイベント交流について発信が無いように思う。きょうだいがない為	今年度は6月と9月に保護者会やペアレント・トレーニングを実施し、保護者同士で交流したり情報共有する機会を設ける等の支援を行いました。家族支援（面談）できょうだい児についての子育てのアドバイスも行いました。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	1	0	0	相談をすると親身になって聞き、考えてくれて次の支援に生かされていましたり解決策を提示してくれたりする。	今後も相談や申入れへの対応について、迅速かつ適切な対応を継続してまいります。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	1	0	1		意見や情報の伝達について、今後も丁寧な対応を心がけてまいります。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	22	3	0	2		情報発信について、今後も丁寧な対応を心がけてまいります。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	26	0	0	1		利用者の個人情報は個人ファイルに管理し施錠できる書庫で保管しております。
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2	0	5	訓練について子どもが受けていない為わからない。	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時周知、ご説明をさせていただいている。全国・エリアでの職員で委員会を組織し、発生を想定した訓練も月に1回実施しております。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	6	0	12	訓練について意識しておらず、どのように行われているかわからない。	非常時対応や訓練について、実施状況が伝わるようにSNS発信や掲示を行っております。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	4	0	3		安全確保について、安全計画に基づき取り組みを継続してまいります。
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23	2	0	2		事故が起きた場合は、事業所から速やかに連絡や事故が発生した際の状況等について説明を行っております。
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	25	1	0	1		安心して通所できる環境づくりを今後も大切にしてまいります。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	23	2	0	2		楽しく通所できるよう、支援の内容の充実に努めてまいります。
	29 事業所の支援に満足していますか。	26	1	0	0		今後も事業所の支援に満足していただけるよう、より質の高い支援の提供に努めています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」平塚校					公表日	2026年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションで区切っている。利用者に合ったスペース作りを一人ひとりに合わせて設定している。	法令を遵守したスペースを確保している。支援内容に応じ、スペースを考慮している。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる職員の配置をしている。	職員配置の更なる充実に向けた採用、育成を検討している。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		個に応じたプログラム表やカード等で視覚提示し、構造化された環境作りをしている。パーティションでスペースの大きさを調節し、構造化で集中できる環境作りを行っている。	段差の箇所があるため、段差が分かりやすいよう、色テープで視覚化している。個に応じ、場所の移動がある際は指導員が必要箇所につくようにし、安全面の配慮が行われるようしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃・消毒・換気にも努めている。利用者の特性や課題に合わせた支援スペースをご案内している。	さらに空間が広いとよいが、生活空間を清潔で心地よく過ごせる環境になるよう、また、子ども達の活動に合わせた空間になるよう努めしていく。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の支援の部屋はないが、必要に応じ、パーティションで空間を作っている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の振り返りに加え、月末会議では月次での会議改善活動報告等を行っている。	今後も業務改善を進めるため、職員全体で目標設定と振り返りに参画して取り組んでいくたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けアンケートの結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行っている。	今後も職員全体で保護者等のご意向等を把握し、業務改善に努められるようにしていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の振り返りに加え、月末会議では職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価は行っていない。	今後は検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の発達支援研究所の定例研修、指導員勉強会、初任者研修、階層別研修、児発管研修等、研修の機会を確保し、職員の資質向上を行うよう努めている。	研修の機会の確保を今後も行うとともに、自校舎での支援方法の情報交換や研修も引き続き行い、支援の資質の向上に努めていく。		
支援体制	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		本人や保護者の方の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成している。計画に基づいた支援内容を計画し、保護者と確認しながら支援を行っている。	支援プログラムの公表については、「支援内容の見える化」の観点から、令和7年4月1日からの義務化に向け、5領域とのつながりを明確化した上で、法人全体で内容検討を重ねている。HPに掲載したプログラム内容の実践を進めしていく。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		統一のアセスメントシートを用いて定期的にアセスメントやモニタリングを行っている。事業所内相談支援を定期的に行い、保護者のニーズをお聞きし、児童発達支援計画を作成している。	今後も引き続きアセスメントを適切に行い、子どものニーズや課題を丁寧に聞き取っていただきたい。職員間で会議を行い、情報交換することで、客観的に分析した児童発達支援計画作成に努めしていく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の情報交換を密に行い、共通理解をすることで、支援プログラムの立案をチームで行い、共有している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った支援内容について、隨時検討する場を設けている。	毎回の支援を児童発達支援計画に沿った内容になっているか、今後も職員全体でチェック体制を取りながら進めていく。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		統一のアセスメントシートを用いて定期的にアセスメントやモニタリングを行っている。事業所内相談支援を定期的に行い、保護者のニーズをお聞きし、児童発達支援計画を作成している。	今後も引き続きアセスメントを適切に行い、子どものニーズや課題を丁寧に聞き取っていただきたい。職員間で会議を行い、情報交換することで、客観的に分析した児童発達支援計画作成に努めしていく。		

適切な支援の提供	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域とのつながりを明確化した上で、分かりやすい、具体的な支援内容を設定している。5領域の支援については、面談等でわかりやすく説明する機会を設定できるよう心がけた。	
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の情報交換を密に行い、共通理解をすることで、支援プログラムの立案をチームで行い、共有している。	
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		構造化の観点から、プログラムをわかりやすく枠組み設定している。内容については、発達段階に応じてスマルステップでレベルアップをし、固定化したりしないよう、職員全体で話し合い、工夫している。	構造化を行い、今後も安心して取り組める環境設定を行っていく。内容についてレベルアップの仕方について職員間で情報交換を密に行い、魅力のある活動プログラムを行うことができるよう努めていく。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の状況やニーズに合わせ、状況を見ながら個別・集団の療育を組み合わせている。	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせて児童発達支援計画を作成していく。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前回の利用者の様子や内容、保護者の方とのお話を内容を踏まえ、支援を行うことができるよう、随時職員間で打ち合わせを行っている。	今後も職員間で打ち合わせを定期的に行い、支援の内容やねらいについて確認を行っていく。記録シートを活用し、今後も職員間での情報交換が円滑に行えるようしていく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		業務に合わせ、打ち合わせの実施をしている。職員相互の情報共有を円滑するためのツールも適宜活用している。	今後も職員間での打ち合わせを定期的に行い、支援の振り返りや、引継ぎを行っていく。記録シートを活用し、情報の共有に努める。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の支援の記録をとり、支援の検証・改善につなげている。	今後も日々の支援記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めていく。
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月のモニタリング期間にこだわらず、状況が変化した際には支援計画の見直しを行っている。	今後も状況が変化した際には随時支援計画の見直しを行っていく。
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や専門的支援職員が出席するようにしており、その内容については職員間で情報共有も行っている。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
関係機関や保護者との連携	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の要望に応じ、行政の発達支援室や保健センター、幼稚園・保育園への関係機関連携の実施を行っている	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用をしている園と関係機関連携を積極的に行い、支援内容の情報共有や相互理解に努めた。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援として、事業所の立場で支援シートの作成を行い、支援内容等の情報共有に努めた。	移行支援として、今後も関係機関と支援内容等の情報共有と相互理解に努めていく。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)	○		障がい児自立支援協議会こども部会未就園児部会分科会へ参加し、今年度は報酬改定についての個別支援計画や専門的支援についての研修や情報共有でスーパーバイザーの助言等を受けることができた。	今後も地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を積極的に持つていきたい。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○		児童同士の交流は現状実施していない。必要に応じて情報交換を行っている。	今後も在籍児童の通園している園への連携訪問を通して、情報交換等を行っていく。

保護者への説明等	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎回の支援後のフィードバックの他に、家族支援を定期的に行い、児童の発達の状況について、保護者との共通理解が持てるよう努めた。	今後も家族支援支援を定期的に行い、子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう、努めていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	今年度は「声かけ変換」「就学」の保護者会(ペアレント・トレーニング)を行い、保護者の対応力の向上を図る研修や情報提供を行った。	今後も保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行ってまいりたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に保護者に説明を行い、理解を得ている。また、教室にも常時掲示し、閲覧できるようにしている。	今後も運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行ってまいりたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	児童発達支援計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行っている。	今後も児童発達支援計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行ってまいりたい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得られるようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的に家族支援を行い、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	きょうだい同士で交流する支援は行っていないものの、保護者会等を開催し、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	通所時はもちろん、LINE、メール、電話等でのご相談を隨時受け付けている。状況に応じ迅速かつ適切に対応するよう努めている。	今後も子どもや保護者からの相談や申し入れがあった場合に、迅速かつ適切に対応できるよう、職員全体で取り組んでいきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	定期的に「きらり通信」の発行他、LINEでの予定の確認を行っている。また、ブログ、SNSを活用し、活動概要等の発信を行っている。	今後も定期的に「きらり通信」を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をわかりやすく発信していく。ブログやSNSを活用し、随時情報発信を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	利用者の個人情報はファイル管理した上で施錠できる書庫で保管している。SNSでの発信の際は個人情報に留意している。	
非常時等の対応	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	給カードやジェスチャーを用いて、意思の疎通や情報伝達のためのわかりやすい配慮を行っている。保護者の方には状況に応じ、口頭だけでなく、メモやプリント、メールやLINEでの配慮も行っている。	今後も障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を行ってまいりたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	個別療育のため、児童同士の交流は現状実施していないが、在籍児童の通っている園の先生が支援の見学に来所いただき、連携を深めている。	今後も在籍児童の通学している学校への連携訪問を通し、情報交換等を行っていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を月に1回実施している。	防災訓練等の情報をHPのブログや、教室会報の「きらり通信」、SNS等にも掲載し、保護者の方にもわかりやすく周知していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	契約時に保護者から情報をお聞きし、基本情報シートに記入いただいている。支援に入る前に情報の確認を行っている。	今後も保護者と情報交換を行い、子どもの状況を職員間で確認していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事の提供はないが、契約時に必ず聞き取り、基本情報シートに記入いただき、情報を職員間で共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援を行っている。	
ヒヤリハット	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	その都度ヒヤリハット表に記入し、事業所内で対策を検討している。	今後もヒヤリハット事例を隨時記録し、情報共有することで、職員の意識をさらに高めていきたい。

	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		虐待防止委員会が組織化されている。全職員で研修に参加し、適切な対応が取れるようにしている。	今後も虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、適切な対応を継続していきたい。
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		身体拘束の基準を重要事項説明書に記載し、契約時に保護者に説明を行っている。	よりわかりやすく保護者に説明し、また職員全体で考え方や意識を共有していきたい。